

「今を共有」みんなで作る仁戸名の和

－病弱教育におけるICTを活用した教育支援－

千葉県立仁戸名特別支援学校 教諭 江川 康史

nitona-sh@chiba-c.ed.jp

<http://www.chiba-c.ed.jp/nitona-sh/>

キーワード：ビデオチャット、ストリーミング中継、病弱教育、医教連携

1. はじめに

私は、10年前、病気療養児が学ぶ現任校に訪問学級の担当として着任した。毎日教材をバッグに詰め、本校から担当する児童生徒が入院する市内の病院に向かった。訪問学級での教育は、病院との連携に始まり連携に終わる。担当する児童生徒は本校の姿を知らず、病院内の学習室や病室そのものが教室である。そのような状況であるから、私自身も赴任したての頃、本校がどのような様子であるのか全くわからないというのが正直なところであった。児童生徒からすれば、治療の合間の担任との1対1の授業が学校生活のすべてであり、担任が級友の役目も兼ねているような印象だったに違いない。「ひとりぼっち」である。しかしながら、唯一、級友の姿が現れ、「和」が広がるときがあった。インターネット回線を利用して本校と各病院をつないだ、行事や集会のストリーミング中継やビデオチャットである。担当していた児童生徒の笑顔に期待感を大きく膨らませると同時に、その必要性を痛感した。

以下に、病気療養児の学習活動を支援する現任校の子どもたちの置かれた状況とその状況を改善すべく全校で取り組んできたストリーミング中継やビデオチャットなどのICTを活用した実践を紹介する。

2. 学校の概要

2.1 本校

本校は病気療養児の学習活動を支援する、病弱教育特別支援学校である。小学部、中学部、高等部があり、学級編成は、以下の3学級からなる。

普通学級・・・隣接病院に入院する腎臓疾患の児童生徒、及び自宅通学が許可されている児童生徒

重複学級・・・隣接病院に入院する重度重複の児童生徒

訪問学級・・・主に血液疾患で、隣接病院以外の千葉市内の病院に入院する児童生徒、及び退院後スクーリングをする児童生徒

普通学級と訪問学級では普通学校とほぼ同様の教育を行い、重複学級では日常生活の指導や自立活動が中心の教育を行っている。

2.2 医療機関

本校は、千葉市の中心街から少し離れた緑豊かな閑静な環境の中にある。隣接する独立行政法人国立病院

機構千葉東病院との協働関係を基盤に、千葉市内に点在する病院で入院治療する児童生徒の教育を前述した3つの学級が連携して行っている。

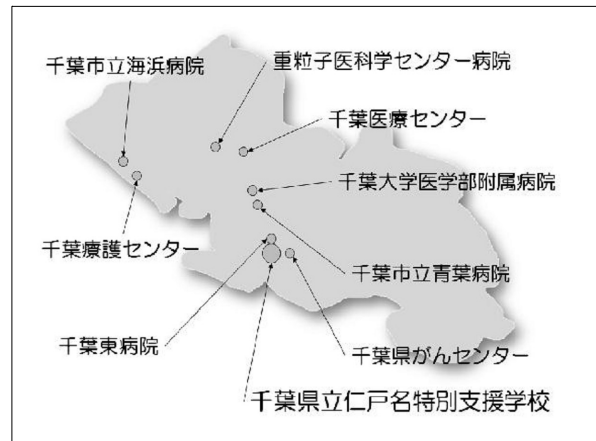


図1 千葉市内における本校と各病院の位置関係

3. なぜ、ICTの活用が必要なのか

「2. 学校の概要」から明らかのように、3つの学級における児童生徒の実態は様々である。普通学級、重複学級の児童生徒は、隣接病院であっても治療による制限や病状により登校が許可されないことがある。また、訪問学級の児童生徒は病院が市内に点しているため、本校への登校は物理的に難しい。つまり、児童生徒が本校で一堂に会することはできず、それぞれの体調に合わせて学校、各病院、家庭と分散して学習することを余儀なくされ、「ひとりぼっち」の状況に陥る。このことに加え、本校に籍を置くに至る心理面を考慮すると、児童生徒の置かれている状況が浮き彫りになる。

- ①全校行事等で共通の目的を持った一体感のある活動を作り上げにくい。
- ②突然の入院・治療への不安のため今後の活動への目標を見いだせない。
- ③級友の姿がなく、在籍している実感がもてない。
- ④不安定な病状により活動が継続できず、学習意欲が低下しやすい。

そこで、ストリーミング中継やビデオチャットなどのICTを活用することで、離れた病院や病室であっても本校の児童生徒と同じように学習や行事に参加し、様々な活動を通して「今を共有」することで、上記の「ひとりぼっち」の状況を和らげることを目指し全校で取り組んできた。

4. ICT活用の中心的存在

4.1 ストリーミング中継

「今を共有」するために、ICT活用の柱として校内に配信用サーバを設け、インターネット網を利用した「ストリーミング中継」と「ビデオチャット」ができる環境を整えている。

ストリーミング中継では、ビデオカメラとエンコード用PCをキャスターに固定した「中継カメラ」により行事等の映像を捉え、配信用サーバから音声と映像によるライブ配信を行っている。閲覧に関してはIDとパスワードを使って本校の児童生徒や関係者であることを認証し、プライバシー保護に配慮している。本校から発信する一方向の通信であり、児童生徒の体調にあわせて、病室で横になりリラックスした状態で行事等の様子をPCを使って視聴することができる。

4.2 ビデオチャット

ビデオチャットは、市販のアプリケーションソフトを使い配信用サーバを介して本校と病室等の複数の児童生徒（10カ所まで）を双方向で繋ぎ、Webカメラとマイクを付けたPCの画面上で、意見を述べたり、文字や絵で表現したり、資料を提示したりすることで情報交換できるものである。自分の気持ちを離れた級友に互いに顔を見ながら伝えることができる。

「ストリーミング中継」や「ビデオチャット」を実際に行事等で使用するときには、情報係と行事係が事前に相談し、目的や児童生徒の状況に応じて2つの機能を適切に組み合わせることで最も教育的な効果が発揮できるように工夫している。

4.3 モバイルルータへの期待

本校のICTを活用した学習支援はインターネット網を利用したもので、インターネット回線への接続が最低限の利用条件となる。以前から関わってきた病院の小児病棟の病室には、アクセスポイントやLANコンセントの環境が整っているが、治療によりインターネット環境のない病室への移動もある。そんなとき、近年急速に普及したモバイルルータの利用が効果的である。本校は昨年2台を購入し、主に訪問学級で使用している。

5. 実践事例

本校における「ストリーミング中継」や「ビデオチャット」を利活用した、これまでの主な実践事例を以下に列挙する。

- ①入学式や卒業式等の様子を参加できなかった家族や登校できなかった病院等の児童生徒に配信（ストリーミング中継）
- ②文化祭（仁戸名祭）における本校と各病院の訪問学級児童生徒を繋いでフィナーレ（ビデオチャット）
- ③本校情報室と各病院の児童生徒を繋いでネットバザー（ビデオチャット）
- ④全校行事のボッチャ大会（虹のつどい）における各チームの本校体育館と各病院の訪問学級児童生徒を

繋いでの応援合戦（ビデオチャット）

- ⑤学部集会における本校プレイルームと各病院の訪問学級児童生徒を繋いで資料提示機能を活用してのレクリエーション（ビデオチャット）
- ⑥本校情報室のALT（英語指導助手）による各病院の訪問学級児童生徒への英語授業や本校理科室から各病院の訪問学級児童生徒への演示実験（ビデオチャット、ストリーミング中継）
- ⑦各病院・病室を繋いで訪問学級児童生徒の集会活動（ビデオチャット）



写真1 病院の学習室でビデオチャットによりボッチャ大会の応援練習をする生徒と職員

6. まとめ

これまでの本校のICTを活用した取り組みによる成果を以下に示す。

- ①3つの学級の児童生徒が互いの存在を実感しながら行事に取り組めたことで所属感や一体感が生まれた。
- ②病室内でも行事や学習に取り組めるという安心感が生まれ心理的な安定や学習意欲の向上につながった。
- ③集会を担当する生徒の活動意欲の向上や思いやりの気持ちの向上につながった。
- ④入院治療による活動制限の多い児童生徒の活動の幅を広げることができた。
- ⑤保護者や医療スタッフに対して病弱教育の理解を図ることができた。

「ストリーミング中継」や「ビデオチャット」を中心としたICTを利活用した取り組みは、日常の教育活動に定着し本校の病弱教育において必要不可欠な存在となっている。しかしながら、人的・物的に縮小傾向にある現任校においては、環境整備の予算、担当者の負担、技術力の担保など、さまざまな課題に正対していかなければならない。

今後も、日々の実践を通して、ICTを利活用した学習支援を工夫改善し、児童生徒たちにより質の高い教育を提供することにより、「将来の大きな夢」へとつながられるように取り組んでいきたい。